

(別記)

## 茂木町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

農業産出額の米が占める割合は全体の4割を超え、主要な作物となっている。また、こんにゃくは町の特産農産物であり、県内でも有数の生産量を誇る。

本町における水田は、全耕地面積の約6割を占める。一戸あたりの水田面積は50a程度と小さい。また圃場区画が小さく、湿田が多いことから、麦・大豆等の土地利用型農業が進展しない状況である。

本町南部の逆川地区と茂木地区の鮎田川流域及び神井川流域については、水田の圃場整備がほぼ完了しており、稲作が効率的に展開されている。加えていちご、なす等の園芸作物の栽培も行われている。

本町北部の中川地区・須藤地区は、典型的な中山間地域で、圃場が狭く傾斜地が多いことから、耕作放棄地が増加している。平成12年度からスタートした中山間地域等直接支払制度を活用して耕作放棄地の発生防止に努めている。

しかし、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数も毎年減少しているため、主要作物の水稲の耕作面積も減少傾向にある。

### 2 作物ごとの取組方針等

町内の約1,100haの水田に、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

#### (1) 主食用米

水稲の生産は、約2,050戸の農家で516ha程度作付されており、品種はコシヒカリが主である。平年単収は500kg程度であるが、逆川地区のような平場と須藤地区のような山間部との差が大きい。異常気象の影響を受けやすく品質のバラツキも発生する。更に、カメ虫による黒点米の発生も多く品質低下の懸念があるが、消費者と実需者のニーズに即した米づくりに取組み『安全』『安心』を基本において、茂木町ならではの、山林から流れるミネラル成分を大量に含んだ水を利用し良食味米の生産を推進する。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

麦・大豆への転作が難しい条件不利地である茂木町では、主食用米と一体的に作付ができる飼料用米を転作作物の中心作物に位置づける。また、飼料用米の生産拡大にあたっては、あさひの夢を推奨し、単収を増加させ、国からの交付金制度を有効に活用する。

また、町内の養鶏業者等への直接販売も推進し、地域内流通による有利販売を目指す。平成26年度茂木町に養鶏業者が参入したため、より多くの需要が見込まれる。

##### イ 米粉用米

茂木町の道の駅もてぎで米粉のバームクーヘンが人気になるなど需要が高まってきているので、生産を推進する。

#### ウ 新市場開拓用米

世界的に和食の人気の高まっており、米の新たな需要が見込めることから、生産コスト低減と多収技術を実証しながら、販売業者等と連携して取組を進めていく。

#### エ WCS 用稲

自給飼料や地域内流通飼料として有効であることから、畜産農家の需要を喚起していく。

#### オ 加工用米

飼料用米と同様、主食用米と一体的に作付ができ、筆管理の飼料用米よりも小規模農家にとっては作付がしやすいため、転作作物の中心作物として推進する。

#### カ 備蓄米

主食用米と一括管理ができることから、小規模な稲作経営の所得確保のため推進していく。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

湿田の多い茂木町では作付実績がほとんどないが、現在作付している面積の維持を図る。

### (4) そば、なたね

地域活性化を担う重要な振興作物であることから、集落営農組織での作付を推進し、畑作物の直接支払交付金を受けつつ、地域の需要者との契約栽培数量の維持を目指す。

多くが湿田での栽培であるが、土地改良等により安定した生産を目指す。

### (5) 高収益作物（野菜等）

いちご、こんにゃくを主要な品目として生産面積を維持し、なす、ブロッコリー、加工用トマト、にら、エゴマ、はとむぎを振興作物として拡大する。

### (6) 畑地化の推進

畑地化については中山間地域であることをふまえて、作付状況調査を進めていく。

## 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	516.0	500.0	450.0
飼料用米	54.5	60.0	70.0
米粉用米			
新市場開拓用米		1.0	2.0
WCS 用稲			
加工用米	3.9	5.0	9.0
備蓄米	11.4	9.0	9.0
麦			
大豆	0.1	0.1	0.1

飼料作物	2.6	2.6	2.6
そば	2.2	2.5	3.0
なたね			
その他地域振興作物	10.3	11.6	13.9
・野菜	5.9	6.5	7.0
・ブロッコリー	0.0	0.3	0.5
・なす	1.4	2.1	3.0
・いちご	2.5	2.5	2.5
・にら	0.1	0.1	0.1
・花き	0.4	0.4	0.4
・はとむぎ	0.6	0.8	1.5
・エゴマ	3.2	3.8	4.8
・こんにゃく	0.2	0.2	0.2

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				現状値	目標値
1	飼料用米、米粉用米	飼料用米等の生産性向上助成	生産性向上への取組	(29年度) 7.8ha	(32年度) 11.0ha
2	麦・大豆・飼料作物・WCS用稲、米粉用米、飼料用米、加工用米、そば・なたね	二毛作助成	二毛作の取組面積	(29年度) 2.1ha	(32年度) 2.4ha
3	飼料作物等	耕畜連携助成(水田放牧)	水田放牧の取組面積	(29年度) 2.2ha	(32年度) 2.5ha
4	ニラ、エゴマ、はとむぎ、ナス、ブロッコリー、ジュース用トマト	重点振興作物加算	重点振興作物の作付面積	(29年度) 5.4ha	(32年度) 7.0ha
5	野菜(重点振興作物を除く)、工芸作物、豆類、なたね等	出荷野菜加算	出荷野菜の作付組面積	(29年度) 3.8ha	(32年度) 5.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

#### 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり